

日中韓大学生交流事業  
TOMODACHI100 プロジェクト

事業実施報告書

認定 NPO 法人 地球市民の会

2016年3月吉日

# 事業実施報告書

認定 NPO 法人 地球市民の会

理事長 山口 久臣

## I. 団体名

主催： 認定 NPO 法人地球市民の会、佐賀県

後援：佐賀県日中友好協会、上海市人民対外友好協会、中国日語教学研究会上海分会  
釜山韓日文化交流協会

## II. 事業名称

日中韓大学生交流事業「TOMODACHI 100 プロジェクト」

## III. 事業実施経過

<対 中国>

2015年10月 大学生募集開始（上海及び浙江省）  
大学・関係団体へ協力依頼（招聘者の検討）  
12月 参加者の確定  
2016年1月 来日準備

<対 韓国>

2015年10月 大学・関係団体へ協力依頼  
11月 参加者募集（釜山韓日交流協会を通じて募集）  
12月 参加者の確定  
2016年1月 来日準備

<対 日本>

2015年8月 団体、行政、企業等へ協力依頼  
9月 プログラム確定、スタッフ募集チラシ作成  
10月 各種手配・調整（バス借り上げ、道具手配等）  
ホストファミリー募集  
佐賀県内大学へ大学生学生スタッフ依頼  
11月 学生スタッフによるプログラム企画会議

12月 最終調整

2016年1月 ホストファミリー確定

#### IV. 実施内容

中国から日本語を学ぶ大学生を佐賀に迎え、さまざまな文化・経済・学術等の視察や交流及び、ホームステイや同世代の日本人大学生との合宿や人と人の交流を通して相互理解を深め合い、地域活性への促進、及び、パートナーシップの構築を目指す8日間のプログラム。

1. 参加者： 中国人大学生 28名、韓国人大学生 10名、中国人の先生 5名 計 43名
2. スタッフ： 41名
3. 日程： 2016年1月27日（水）～2月3日（水）
4. スケジュール表：

日程	内容	宿泊場所
1月27日（水）	午前：中国人大学生到着（佐賀空港） 韓国人大学生到着（博多港） 午後：佐賀県庁表敬訪問、オリエンテーション	北山少年自然の家
1月28日（木）	午前：サンポー食品視察 午後：鳥栖プレミアムアウトレットで買い物	古湯温泉
1月29日（金）	午前：佐賀大学訪問 午後：日本文化体験 ウェルカムパーティー&ホストファミリー対面式	ホームステイ
1月30日（土） ~1月31日（日）	終日：ホームステイ	ホームステイ
2月1日（月）	午前：海苔加工工場視察 午後：着付け体験	ホームステイ
2月2日（火）	午前：バルーン係留、買い物 午後：TOMODACHI100発表会 フェアウェルパーティー	佐賀県青年会館
2月3日（水）	午前：中国人大学生出発（佐賀空港） 韓国人大学生出発（博多港）	

## V. 主な活動詳細

### 1月27日（水）「レクリエーション（場所：北山少年自然の家）」



27日に韓国・中国の学生が佐賀に来て、多くの知らない人の中緊張をほぐすという事が今回のレクリエーションの目的であった。写真でも伝わるくらい楽しんでもらった。ゲームを二つ行ったのだが、多くの人と話すゲームを取り入れ初めての人と話すきっかけになったことだろう。

### 28日（木）「株式会社サンポー食品視察」



カップラーメン等を製造しているサンポー食品の工場（基山町）見学を行った。製造する過程を見学したのち、製造されたカップラーメンを3種類試食した。韓国人と中国人で好みが分かれて、面白い試食会となった。

## 29日（金）「佐賀大学訪問」



午前中は佐賀大学にて、留学の方法や日中韓の食文化、アニメーションについて（ヒアリングにより参加者が興味ある分野を選択）専門の先生から説明を受けた。パンフレットや説明を興味津々に聞いていた。

## 29日（金）「日本文化体験（場所：旧古賀家）」



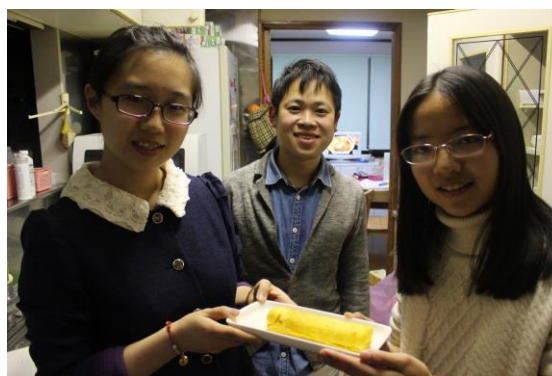
日本文化体験では、琴・茶道・華道を体験した。中国や韓国にも似たような楽器や茶道があったりするが、日本ならではの習わしを学ぶ機会になった。先生方の計らいもあり、参加者は全部を体験することが出来た。

## 29日（金）「ウェルカムパーティー&ホストファミリー対面式」



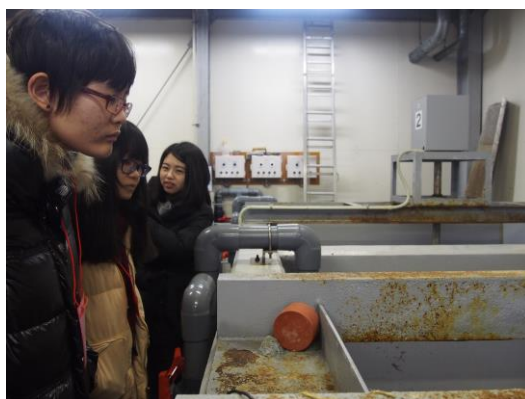
3日目にして歓迎式を行った。また、同日からホームステイが4泊5日で行われるため、ホストファミリーとの対面式を行った。今回は参加者、ホストファミリー、スタッフ共に人数が多いため学生プロジェクトチームで念入りに会議を行った。写真左は、パーティー前に円陣を行っている様子です。参加者とホストファミリーは初対面であり、4泊5日を過ごすため如何に打ち解けられるかがパーティーの目的であり、今回は大いに盛り上がりおえることが出来た。

## 29日（金）～2日（火）4泊5日「ホームステイ」



今回は参加学生が38名と前回より多くなった為、ホームステイ受け入れ家庭の確保に苦労したが、20家庭受け入れてもらった。各家庭で、行った内容は様々であった。料理を一緒に行ったり、酒蔵に行ったりと参加者はホームステイが一番楽しかったと口々に言っていた。長い日程を過ごすこともあり、ホームステイが佐賀・日本の事を良く知る体験であると実感した。また、中国の引率の先生のウェルカムパーティー時に言っていたが、「参加学生は自身の家庭で、一人で何かをした事があまりないので、ホームステイでは掃除でも洗濯でもなんでもさせてください。」と後押ししてくれたことも各家庭でどのような心構えで学生と接すればよいか迷っていた人もいただろうが、期間中良い印象を持ってもらった要因だと感じる。

## 2月1日（月）「海苔加工工場見学」



海苔の大産地である佐賀県に訪問するという事で是非参加者には海苔の加工現場を見てほしいとのことで今回プログラムに組み込みました。韓国には日本とは違った海苔があり、日本の海苔の製造現場には興味津々で見えていました。

## 1日（月）「着付け体験（ビューティック二葉）」



毎年恒例の着付け体験です。昨年より多くの受け入れをしてもらいました。着付けをできなかったメンバーも着付けの過程を見学したり、一緒に写真を撮ったりしており、楽しめていた。着物姿に包まれ、柳町の町並みを見ながら近くの神社まで歩きました。

## 2日（火）「バルーン係留」



バルーンも佐賀において、大きなポイントではないかと思う。朝早い集合ではあった。また、天候が不安視されていたが、無事飛ぶことが出来、みんな搭乗することが出来た。上空からの佐賀の景色を楽しんでもらった。その後はみんなで後片付けもした。

## 2日（火）TOMODACHI100 発表会

27日から参加しての感想や日本や佐賀に対して感じる事、日本人のいいところや変なところなどを日本語で8人に発表してもらいました。



日本に来てからの日本人の心に非常に感動したというスピーチが多かったです。何より、テレビでのイメージとはいい意味で違うことが多くて驚いたということです。

「本当のことを知るためには実際に交流をすることが一番必要であると感じました。」  
コメンテーターからも短期間でここまで日本人の事を見てくれて嬉しいとのコメントもありました。



## 2日（火）フェアウェルパーティー



これまでの交流をホストファミリーと振り返るだけでなく、スタッフ作成のムービーで振り返りをしました。最終日という事もあり、別れを実感し、思い出を振り返り、最後には涙、涙の別れとなりました。

## VI. 事業の成果、反省

本事業は、様々な団体や個人の方々にご協力をいただいたお陰で、無事に終えることが出来ました。感謝申し上げます。

### 1. 成果

①今回の交流事業により、多くの方の交流が見受けられ、大きな成果は参加者が満足して帰国してくれたこと。

②日中韓のそれぞれのイメージが少し変わったという参加者が多かった。政治や教育の影響もあり、始まる前はお互いに不安な部分もたくさんあったが、ホームステイや学生交流を通し、不安な部分も解消されたと言っていた。また、日本に来たいと思う学生が増え、この事業を多くの人に紹介し、ここから友好を拡げていきたいと思ってもらえたことは大きな成果である。

③学生メンバーでの運営において、事前ミーティングは回数や話し合い内容では無駄なことはなかった。

④学生メンバーで振り返りの会議を実施できたこと。  
当日で終えるのではなく、成果や反省をメンバーからも出してもらい、来年にもつなげら

れる意見が多く出たのは非常に良かったと思う。

## 2. 反省

①参加者や先生方への細かな気遣いが不十分であったこと。

・北山少年自然の家で部屋の暖房が深夜になると切れてしまい、その対処が不十分であった。

・鳥栖アウトレットでの買い物において、買い物する時間で個人差があり、時間を持て余した参加者への対応

・スケジュールの共有や行き先での施設の情報を参加者に提供する

②パスポートのコピーを持参してもらう。

宿泊先や買い物でパスポートを使う場面が多かった。毎回コピーを取ることで時間のロスが生じた。

③学生メンバーでの会議を進めていく上で、情報共有を丁寧に行っていくこと。

## 3. 総括

本事業は2016年1月27日～2月3日の7泊8日で実施した。参加者、ホストファミリー及び、スタッフが満足して終わることが出来たのが一番の成果である。また、怪我もなく無事に終わることが出来た。

今年度は43名の参加者があり、毎年増加している。今までの参加者やスタッフの中で、交流の輪が口コミなどで広がってきている。来年度も実施を予定しており、更に参加者が増加することが期待できる。参加者増加における受入れ体制を万全にしていかなければならない。そのためにも今年、反省として挙げた点は改善を行い、来年度起こるであろうイレギュラーを想定し、事前の対策を行っていこうと考える。

最後になったが、本事業は多くの方々の協力があって実施できたことに感謝をしている。誠にありがとうございます。